



あこう通信

「今日も楽しかった。明日も楽しみ。」と思える学校を創ろう

～いい顔 いい声 いい心～

発行：令和7年8月9日（土）NO.17 文責：副校長 津田 幸一

学校 HP URL <http://www.nagasaki-city.ed.jp/kosakaki-e/index.html> （2次元コードからどうぞ）



平和登校日によせて ～平和の尊さを未来へつなぐ～

本日8月9日（日）は、長崎県が定める「平和登校日」です。

子供たちと共に平和について深く考える時間です。

平和登校日の趣旨は、過去の悲惨な戦争の教訓を忘れず、平和の尊さ、命の大切さを改めて心に刻むことにあります。

長崎県では、昭和20年8月9日の原爆投下という筆舌に尽くしがたい経験をしました。その悲劇を2度と繰り返さないために、そして、未来を担う子供たちが平和な世界で生きていけるように、私たち大人が、そして子供たち自身が、平和について学び、考え続けることが不可欠です。

特に近年、世界では争いが絶えず、遠い国の出来事であっても、テレビやインターネットを通してその悲惨な状況が私たちの目にも飛び込んできます。平和な日常がどれほど尊いものであるか、改めて考えさせられます。

子供たちにとって、戦争は遠い昔の出来事、あるいはゲームや映画の中の架空の世に残された資料には、決して忘れてはならない真実があります。

例えば、長崎に原爆が投下された時、多くの子供たちが何の罪もないまま命を奪われたという事実。そして小学校入学したばかりの幼い子が、学校に行く途中で被爆し、2度と家族のもとに帰ることができなかったという話。生き残った方々が、心と体に深い傷を負いながら、懸命に生きてこられた話。様々なエピソードがあります。

私たちは、そうした方々の苦しみや悲しみを決して忘れてはなりません。そして、その上に私たちの今の平和な暮らしが成り立っていることを心に留める必要があります。平和とは、誰かが与えてくれるものではなく、私たち一人ひとりが意識し、行動することで守り、築き上げていくものです。

平和登校日を通して、子供たちには以下のことを学んでほしいと願っています。

- 命の尊さ 全ての命がかげがえのないものであること。
- 戦争の悲惨さ 戦争が人々にどんな苦しみをもたらすか。
- 平和の尊さ 平和な日常がいかに貴重であるか。
- 平和のためにできること 私たち一人ひとりに何ができるか。

平和登校日には、リモート形式で集会を行いました。5年生の平和学習の成果発表やそれぞれの学級から平和への願いの発表をしました。

ご家庭におかれましても、この機会にぜひ、お子様と戦争や平和についてお話をする時間を持っていたいただければ幸いです。祖父母の方々の体験談を聞いてみるのも良いかもしれません。

未来を担う子供たちが、平和の尊さを理解し、世界中の人々と共に手を取り合い、平和な社会を築いていくことができるよう、教職員一同心を込めて指導してまいります。

1学期終業式（リモート）

校長講話

みんなが、ひとりひとり、「気づき、考え、実行する」ことができると、「今日も楽しかった。明日も楽しみ。」と思える学校を創ることができると思います

命（いのち）は「だ・い・じ」

だ～だれもが ひどつしかもっていない

い～一度なくすと もどらない

じ～自分が自分である証



代表発表

2・4年生の4名が、1学期を振り返り、今後の抱負を述べました。
立派な態度でした。

9月行事（予定）

- 1日（月） 始業式
- 2日（火） ～5日（金） 特別時程給食後下校
- 3日（水） ～10日（水） 夏休み作品展
- 11日（木） 委員会活動
- 12日（金） 3・4年生6校時カット
- 15日（月） 敬老の日
- 17日（水） 6年生修学旅行
- 18日（木） //
- 19日（金） 代表委員会（4・5年）
- 23日（火） 6年生のみ10時登校
- 24日（水） 秋分の日
- 26日（金） 避難訓練 小体会練習開始
- 4-2授業公開※下校時刻変更

4-2 以外 13:35
4-2 15:20

家族・交流証言講話（7/9）

講話を、永井徳三郎（ながいとくさぶろう）さんに依頼して実施しました。爆心地から約700mの長崎医科大学で被爆した祖父の永井隆（ながいたかし）博士と、当時10歳だった父の誠一（まこと）さんの被爆体験をご家族の視点で話してくださいました。

